
目次

.....

【1】 --- 教員コラム 16 弾 第 4 回「本を読めたい」小児科学 / 秋岡親司

.....

【2】 --- [11/2 から] 創立 150 周年記念事業<拝見！大先輩の講義ノート>展

.....

【3】 --- 令和 4 年度上半期受入れ図書

.....

【4】 --- 2022 ノーベル賞 論文公開

.....

【5】 --- [10/31 まで]「リサイクルの日」古本募金キャンペーン

.....

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 16 弾 第 4 回「本を読めたい」

小児科学/秋岡親司

.....

日々、唯物論の喧騒の中にいると、ふと、形而上の、見えないものに浸りたい気分になる。AB 型ゆえ分裂気質、内的自己への逃げ込みなのか。哲学でも仏様の教えでもない、実存の意識は失わない。豊饒の世界を夢みてはいるのだが、単なる癒やしか、水浴の如く汚れを落とすものなのか、本はほとんど読んでこなかった、長いものは全く。生来の集中力の無さのためか、映画もみない、芝居も、観劇もしない。神々の黄昏もヴェリズモもくどい。もっとシンプルでいいじゃないかと。ただ、6 楽章仕立ての角笛第 3 番は 100 分超えても OK、深志出身の友人が言う“子守唄だから”に同意。なので、読むのは短編、エッセイに限る。心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくったものを読む。。短きものには、大道具がない。より写実的であるためか、その一つ一つに心が読み取れる。装飾が無い分、むき出しの言の葉が重く、深い。行間には紫色の空気が流れ、読み手は言葉にならない声をあげる。それがいい。。男は、ある時は飯場、ある時は酒場、海よりも山、そして朝日より夕日。付加価値的な言説も少なく、回顧と二人称への息づかい、そして心の動きが裸電球の下、照らしだされる。旧きもの、無くなるものへの郷愁を著しつつ、その時間の連続の中に

男はあるという。母は常に規範を示し、男は無批判でそれを信じる。作家は女に多くを語らせないが、それは外的自己の投影像、そのものだ。宗像のお社は、西日を背景に、人生の黄昏を語る。西方浄土？それは考えすぎだな。。。ふと、窓の外をみると、雲海の向こうに富士が見えた。先週も車窓から富士を見た、碧かった。そうか、これだったのか、九州出身の友人が JAPAN Day で描いた富士は。異国の地で一人苦闘していた彼が描いた碧。。。いつの日かあれを読めるかもしれないな、それも心々ですさかい、聡子の言葉を理解できる日も来るのかもしれない。と、心のエピジェネティックな変化を感じる毎日である。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- [11/2 から] 創立 150 周年記念事業＜拝見！大先輩の講義ノート＞展

.....

令和 4 年度第 2 回企画展示は京都府立医科大学創立 150 周年記念事業です。

100 年以上前の本学医学生の手紙を展示します。当時は教科書もなく、医学生は全て手書きでノートに勉強内容をまとめていました。京都府医学校の講義内容や先輩達の整った筆跡を是非ご覧ください。

トリアス祭実行委員会、創立 150 周年記念委員会との共催企画であり、トリアス祭では奥田司先生、八木聖弥先生による展示説明会が実施されます。

< [トリアス祭](#) > 11/2(水)-3(祝・木)

場所：基礎医学学舎 1 階 ロビー

[展示説明会](#)：11/3(祝・木) ①12:15-12:45 ②16:15-16:45

< トリアス祭後 > 11/7(月)-30(水)

場所：附属図書館 1 階 特設展示コーナー

【3】 --- 令和 4 年度上半期受入れ図書

.....

シラバスを基準に購入した図書など、令和 4 年度上半期に入った新しい本を[図書館ホームページ](#)でお知らせしています。※学内専用のため、パスワードが必要です。

【下鴨館】 図書 14 冊『[Essential 細胞生物学](#)』など

【本館】 図書 92 冊『[標準外科学 第 16 版](#)』
『[ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第 4 版](#)』 など
【寄贈図書】 図書 68 冊『[レジデントのためのこれだけ心電図](#)』 など

図書館の所蔵資料や貸出状況は、[Mecke](#) で検索、確認できます。新しい資料をぜひ御利用ください。

【4】 --- 2022 ノーベル賞 論文公開

.....

2022 年ノーベル賞がスウェーデン王立科学アカデミーで発表されました。

ノーベル生理学・医学賞では、人類の進化の解明に貢献する研究により、OIST＝沖縄科学技術大学院大学にて客員教授も務めるドイツの研究所の Svante Pääbo 博士が受賞しました。他にもノーベル物理学賞、化学賞など受賞者の最も多く引用された文献が、エルゼビアから無料公開されています。

Svante Pääbo(スバンテ・ペーボ)博士著者論文：[こちら](#)
ノーベル賞特設ページ：[こちら](#)

【5】 --- [10/31 まで]「リサイクルの日」 古本募金キャンペーン

.....

10/20(木)は「リサイクルの日」です。[KPUM 図書館サポートプロジェクト古本募金](#)が参加する[チャリボン](#)では、10/20(木)-31(月)、寄付申込み 1 件につき、530 円(ゴミゼロ)を寄付金に上乗せするキャンペーンが行われています。

学内回収箱マップは[こちら](#)。

本をリサイクルしようと思ったら「[古本募金](#)」を思い出してもらえると嬉しいです。

[Book Review]

.....

唐鎌大輔著「強い円はどこに行ったのか」(日経 BP 日本経済新聞出版 2022)

来年度予算要求のため電子ジャーナルの見積書を各出版社から集めたが、急激な円安により、価格は大幅に上昇している。

国は、ゼロ金利政策を依然堅持し「貯蓄から投資へ」のスローガンを掲げ、投資による資産形成を促しているが、国内貯蓄は、そもそも国債の購入等に充てられており、極端な円売り投資に殺到すれば、一層の円安が進む可能性もある。

新型コロナウイルス、ウクライナ侵攻、世界的な物価高騰や国際情勢の緊張など、様々な要因が経済に絡んでおり、単純に理解できないが、これまでの国際協調時代とは異なる不安定な社会状況に直面している。

今後の経済の先行きは不透明であり、円安がトータル的に日本にメリットがあるのかどうか疑問であるが、本書が指摘するように現在の円安を最大限生かし、人、物、金を日本に集める環境を用意するなど、思い切った我が国の歩むべき道を考えることが必要な時期であることは確実である。

(ファーストリテイリング会長談(10/14):「経済は本当にひどいですよね、これ。構造的に転換しないとだめでしょ。小手先のお金を配ることだけ、こんなことでいいんですかね。」)(M.N)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib/>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4296115065>

.....
図書館メール News 第 477 号 2022.10.28 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....
(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>